

発達障害について。

自閉症障害、高機能自閉症障害、アスペルガー障害、レット障害、学習障害(LD)小児期崩壊性障害、注意欠陥/多動性障害(ADHD)特定不能の広汎性発達障害などの解説。

発達障害とは

脳の機能に障害があることで、脳の発達に偏りが生じることです。

これは、生まれつきの病気であり、その、脳の特性は大人になっても変わることはありません

以下で詳しく説明します。

発達障害とは、自閉症障害、高機能自閉症障害・アスペルガー障害、レット障害、学習障害、小児期崩壊性障害、注意欠陥/多動性障害をまとめて発達障害とよばれています。

その中の自閉症、アスペルガーを**広汎性発達障害**(こうはんせいはいったつしょうがい)と区別する場合があります。

知的障害を伴わない発達障害の仲間を**高機能広汎性発達障害**と呼ぶ場合もあります
広汎性発達障害のなかで知的障害をとまなわなものを高機能(軽度)～と言います。

高機能とは知的障害をとまなわなという意味です。

自閉症の軽症例と言えます。

色々な特性を複数併せ持つ人も、珍しくありません。

発達障害の症状と合併しやすい病気は、トゥレット障害、学習障害、うつ病、強迫性障害などがあります。

二次障害(上記障害によつての生きづらさにより、病気(うつ病、強迫性障害、統合失調症など))に比較的なりやすいといわれます。

自閉症障害(低機能自閉症)

カナー症候群とも呼ばれています。言葉の発達の遅れ、知的障害、コミュニケーション障害、強いこだわり、感覚過敏があります。

高機能自閉症障害こうきのうじへいしょうがい

上記自閉症と同じですが、知的障害はありません。今は、アスペルガー障害(アスペルガー症候群)＝高機能自閉症の考えが主流になっています

アスペルガー障害

社会性の欠如、コミュニケーション能力の欠如、強いこだわりがあるが、知的障害はありません。

注意欠陥/多動性障害(ADHD)ちゅういけっかんだどうせいしょうがい

不注意、衝動性、多動性などの行動特性があります。

状況に応じた行動制御が難しい、集中して人の話が聞けないなど本人の知能発達に対してアンバランスな行動をしてしまいます。

学習障害(LD)がくしゅうしょうがい

読み書きのLD(ディスレクシア)と、書字のLD、算数のLDがあります。知能的に普通なのに、その部分だけが抜け落ちてしまいます

レット障害

女子に発症するまれな脳障害です。突然いままで正常に発達、習得した言語、動作などの発達の停止と退行を示します。

小児期崩壊性障害しょうにきほうかいせいしょうがい

生後2カ年までは正常に発達。のちにそれまで取得した言語、対人関係、排泄機能などが喪失。自閉性障害の症状をもちます。

補足

ADHD、LD、自閉症などは、子供のころ、学校生活を送る上で大きな支障がでますが、その分 早期に手助けしやすく、高機能自閉症、アスペルガー症候群は何らかの奇異な行動は見られますが、学校生活に支障がないことが多いのでみすごされて早期に手助けできない場合が多いです

* ADHDでも、注意欠陥タイプ(のんびりタイプ)の子は見過ごされやすいです